

簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 ~ 〕(配点 40)

A 損益計算と資本の増減に関する4ページから6ページの問い(問1~4)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

問1 次の文章の ~ に入る最も適当なものを、後の解答群のうちから一つずつ選べ。

個人企業の決算において、損益勘定の貸方には の各勘定の残高を、借方には()の各勘定の残高を振り替える。この結果、貸方残高になった場合、その残高は当期に生じた を意味するので、 勘定の貸方に振り替える。

なお、事業主による追加出資があった場合も 勘定の貸方に記入されるが、これは に該当するので利益計算からは除外される。

~ の解答群

- | | | |
|---------|--------|-----------|
| ① 負債 | ④ 費用 | ⑦ 収益 |
| ② 引出金 | ⑤ 資本金 | ⑧ 繰越利益剰余金 |
| ③ 未実現利益 | ⑥ 純損失 | ⑨ 純利益 |
| ④ 資本取引 | ⑦ 損益取引 | ⑧ 出金取引 |

問 2 個人企業である秋田商店(決算は年1回、決算日は12月31日)の連続する各年度の貸借対照表と損益計算書をまとめた次の表について、**オ**～**セ**に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。なお、×5年度および×6年度に資本の追加元入れ・引き出しはなかった。

	期首貸借対照表			期末貸借対照表			損益計算書			
	資産	負債	資本	資産	負債	資本	収益	費用	当期純利益	当期純損失
×5年度	ア , カ 00	1,500	1,000	2,750 ()		1,200	600	キ ク 0	200	—
×6年度	()	ケ , コ サ 0	1,200	2,460 ()		シ , ス セ 0	150	170	—	()

問 3 個人企業である岩手商店(決算は年1回、決算日は12月31日)の事業主が、×5年1月5日に私用のため原価¥70の商品を使用した際に、次の仕訳を行っていたことが、×5年1月10日に判明した。必要な訂正仕訳を、後の解答群のうちから一つ選べ。ただし、商品売買取引は3分法で処理している。なお、引出金勘定は用いていない。**ソ**

1月5日：(借) 売 掛 金 70 (貸) 売 上 70

— **ソ** の解答群 —

①	(借) 売 上 70	(貸) 仕 入 70
②	(借) 売 上 70	(貸) 売 掛 金 70
	資 本 金 70	買 掛 金 70
③	(借) 資 本 金 70	(貸) 売 掛 金 70
④	(借) 売 上 70	(貸) 売 掛 金 70
	資 本 金 70	仕 入 70

簿記・会計

問 4 宮城商事株式会社(決算は年1回, 決算日は3月31日)は, ×5年6月25日の株主総会で, 繰越利益剰余金を配当および処分することを決議し, 次の仕訳を行った。ただし, ×5年6月25日における資本金勘定の残高は¥10,000, 資本準備金勘定の残高は¥1,000, 利益準備金勘定の残高は¥1,250であった。なお, 利益準備金は, 会社法に規定する額を積み立てている。 ・ に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

(借)	繰越利益剰余金	2, <input type="text" value="タ"/> <input type="text" value="チ"/> 0	(貸)	未払配当金	1,500
				利益準備金	()
				別途積立金	400

簿記・会計

B 次の文章は、個人企業である北海道商店の簿記研修会における新入社員A氏と講師Z氏の会話である。これを読み、10ページから11ページの問い(問1～7)に答えよ。ただし、商品売買取引は3分法で処理している。なお、金額の単位はすべて千円である。また、()は各自で考えること。

Z：今回は、帳簿への記入について勉強しましょう。前回学んだ勘定への記入方法では、(i)取引を分解し、その要素のむすびつきを借方と貸方の二面から捉えることがポイントでした。

A：前回のノートを見ると、資料1のように記入するんですね。

資料1 資産・負債・資本・収益・費用の勘定への記入方法

資産の勘定		負債の勘定		資本の勘定	
【1】増加	【2】減少	【3】()	【4】()	【5】()	【6】()
収益の勘定		費用の勘定			
【7】()	【8】()	【9】発生	【10】消滅		

Z：取引をどのように勘定へ記入するか覚えていますか？

A：たとえば、**テ**の取引であれば、仕訳にもとづいて【1】と【2】に記入し、**ト**のような取引は、【2】と【3】に記入しました。少し特殊なケースとして、**ナ**のような【3】と【10】に記入される取引もありました。

Z：よく理解されていますね。それでは、まず、仕訳帳に取引を記入してみましょう。仕訳帳には、すべての取引を発生順に記入します。1月8日までの取引を実際に記入してみましょう。

…できましたね。それでは、資料2で仕訳帳への記入を確認していきましょう。

A：すみません。1月1日の前期繰越高¥2,500は、どの金額にもとづいていますか？

Z：この金額は、前年度である×4年度の**ニ**にもとづいています。この記入により、期末の仕訳帳の合計額と合計試算表の合計額が一致し、記帳の正しさを確認できるので便利です。

A：なるほど、わかりました。1月5日の借方に**ヌ**が記入されていますが、小書きがあるので送金小切手を受け取ったことまでわかって便利です。

資料2 仕訳帳への記入

		仕 訳 帳			18
×5年		摘 要	元 丁	借 方	貸 方
1	1	前期繰越高	✓	2,500	2,500
	5	(<input type="text" value="又"/>)		380	
		(売 上)			380
		新潟商店に売り渡し、送金小切手の受け取り			
	8	諸 口 (普通預金)			155
		(水道光熱費)		75	
		(通 信 費)		80	
		普通預金口座から引き落とし			

Z：それでは次に、総勘定元帳へ記入してみましょう。総勘定元帳の勘定口座への記入を転記といいましたね。仕訳の勘定科目と同じ勘定口座に記入しますが、(ii) 摘要欄と金額欄の記入には注意が必要です。たとえば、1月8日の取引について転記すると、普通預金勘定と通信費勘定は、 のようになります。

資料3 総勘定元帳への記入(一部)

		普通預金				通信費								
		2				24								
×5年	摘要	仕 丁	借 方	×5年	摘要	仕 丁	貸 方	×5年	摘要	仕 丁	貸 方			
1	1	前期繰越	✓	200	1	8	[a]	18	[b]	1	8	()	18	[c]

A：なるほど。それにしても、総勘定元帳には勘定口座がたくさんありすぎて、混乱してしまいます。

Z：そうですね。そこで、水道光熱費や通信費などを個別の勘定で処理するほかに、これらの費用を一括して販売費及び一般管理費勘定で処理し、その明細を販売費及び一般管理費元帳という(iii) 補助簿に記入する方法もあります。この場合の販売費及び一般管理費勘定は、 勘定と呼ばれます。

A：その方法だと、多くの勘定口座に分散しないので、管理しやすそうですね。帳簿への記入は大変ですが、これが財務諸表の作成に役立つんですね。

簿記・会計

Z：そのとおりです。企業会計原則の **ヒ** の原則でも、客観的な証拠をもとに、すべての取引を所定のルールに従って帳簿に記入することが、財務諸表を作成するための重要な要件とされています。

問 1 会話文における下線部(i)に関連して、簿記上の取引に含まれるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **ツ**

ツ の解答群

- ① 従業員を月給 ¥ 150 で雇い入れることにした。
- ② 銀行と ¥ 200 を借越限度額とする当座借越契約をむすんだ。
- ③ 火災によって、帳簿価額 ¥ 800 の建物が焼失した。
- ④ 1 週間後を納期として、商品 ¥ 70 を注文した。

問 2 会話文における **テ** ~ **ナ** に当てはまる取引を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

テ ~ **ナ** の解答群

- ① 今月分の新聞の購読料 ¥ 5 を現金で支払った。
- ② 掛けで売り上げた商品のうち ¥ 30 が、品違いのため返品された。
- ③ 借入金 ¥ 70 を現金で返済した。
- ④ 掛けで仕入れた商品について、汚損のため ¥ 15 の値引きを受けた。
- ⑤ 買掛金 ¥ 30 を支払うため、仕入先を名あて人とする約束手形を振り出した。
- ⑥ 事務用のパソコン ¥ 350 を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

問 3 会話文における **ニ** に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

ニ の解答群

- ① 繰越試算表の合計額
- ② 期首貸借対照表の資産合計額
- ③ 損益計算書の収益合計額
- ④ 期末貸借対照表の負債合計額

問 4 会話文における **ヌ** に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

ヌ の解答群

① 約束手形 ② 小切手 ③ 当座預金 ④ 現金

問 5 会話文における下線部(ii)に関連して、**資料 3** の総勘定元帳における摘要欄と金額欄【a】～【c】に入る語句と金額の組合せとして最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **ネ**

ネ の解答群

①	【a】 通信費	【b】 155	【c】 80
②	【a】 諸口	【b】 80	【c】 155
③	【a】 通信費	【b】 80	【c】 155
④	【a】 諸口	【b】 155	【c】 80

問 6 会話文における下線部(iii)に関連して、補助簿に含まれるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **ノ**

ノ の解答群

① 仕訳集計表 ② 振替伝票 ③ 貸借対照表 ④ 固定資産台帳

問 7 会話文における **ハ** ・ **ヒ** に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ハ の解答群

① 人名 ② 対照 ③ 統制 ④ 評価

ヒ の解答群

① 継続性 ② 正規の簿記 ③ 明瞭性 ④ 保守主義

簿記・会計

第2問 個人企業である愛知商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は複合仕訳帳制度を採用しており、普通仕訳帳のほかに当座預金出納帳、売上帳、仕入帳を特殊仕訳帳として用いている。特殊仕訳帳から総勘定元帳への合計転記は、普通仕訳帳をとおさず、毎月末に行っている。ただし、補助簿として売掛金元帳、買掛金元帳、支払手形記入帳を用いている。なお、愛知商店には支店が一つあり、支店の会計は本店の会計から独立している。また、未達事項の整理は、仕訳帳や総勘定元帳では行わず、損益計算書と貸借対照表でのみ行っている。

愛知商店の本店に関する次の資料1～資料6にもとづいて、16ページの問い(問1～4)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。〔解答記号 **ア** ～ **ヌ** 〕(配点 30)

資料1 ×5年1月1日から17日までのすべての取引

- 1日：再振替を行った。
- 4日：×4年12月30日に支店から送られていた現金¥270を受け取った。なお、これ以外に×4年中の本支店間の未達取引はない。
- 5日：三重商店に商品¥450を売り渡し、代金はかねて本店が振り出した小切手で受け取った。
- 7日：三重商店に対する本店の売掛金¥580を、支店が現金で回収したむねの通知を受けた。
- 9日：さきに三重商店から受け取った約束手形¥320を取引銀行で割り引き、割引料を差し引かれた手取金¥310は当座預金とした。なお、この取引は当座預金出納帳のみで処理し、保証債務について考慮する必要はない。
- 13日：長野商店から商品¥410を仕入れ、代金は掛けとした。なお、本店負担の引取運賃¥20は小切手を振り出して支払った。
- 14日：岐阜商店から商品¥720を仕入れ、代金はかねて支払っていた内金¥400を差し引き、残額は掛けとした。
- 15日：滋賀商店に対する支店の売上代金¥250が、当座預金に振り込まれた。
- 17日：長野商店から商品¥590を仕入れ、代金のうち¥()は長野商店あての約束手形を振り出し、残額は掛けとした。

資料2 ×5年1月中の取引を記帳した普通仕訳帳(すべて)

		普通仕訳帳		
×5年	摘要	元 丁	借方	貸方
1	1 (保険料)	27	120	
	(ア)	12		120
	再振替			
	4 (現金)	1	270	
	(支店)	13		270
	支店から現金の受け取り			
	7 (イ)	()	580	
	()	()		580
	支店による本店売掛金の回収			
	24 (買掛金)	()	ウエ0	
	(支払手形)	14		ウエ0
	買掛金支払いのため為替手形の引き受け			

(注) 〰〰〰によって、開始記入は省略してある。

簿記・会計

資料3 ×5年1月中の特殊仕訳帳(一部)

当座預金出納帳

×5年	勘定科目	摘要	元丁	売掛金	諸口	×5年	勘定科目	摘要	元丁	買掛金	諸口
1	5	() 三重商店	㊦		()	1	9	() 約手割引	30		()
	9	受取手形 約手割引	3		㊦㊦0		13	㊦ ()	✓		()
	15	() () ()			250		20	給料 本月分	22		900
	29	売掛金 三重商店	売1	()			24	買掛金 () ()	()	()	930
				()	1,020					()	930
	31	売掛金	4		㊦㊦0		31	買掛金	15		()
	"	預入合計	2		()		"	引出合計	2		()
		前月繰越	✓		()			次月繰越	✓		2,700
					3,870						3,870

(注) 太字は赤字記入を意味する。

仕入帳

×5年	勘定科目	摘要	元丁	買掛金	諸口
1	13	買掛金 長野商店 掛け	買2	410	
		() ()	✓		20
	14	㊦ 岐阜商店 ()	9		400
		買掛金 長野商店 ()	買1	320	
	17	() 長野商店 ()	14		()
		買掛金 長野商店 掛け値引	買2	㊦㊦0	
	19	買掛金 長野商店 掛け値引	買2	20	
				1,140	1,080
	31	()	15		()
	"	総仕入高	()		()
	"	()	㊦		()
		純仕入高			2,170

(注) 摘要欄への記入は一部省略してある。また、~~~~によって、取引の記入は一部省略してある。なお、太字は赤字記入を意味する。

資料4 ×5年1月中の総勘定元帳(一部)

総勘定元帳					
当座預金		2	支店		13
1/1 前期繰越	2,420	1/31 ()	1,170	1/1 前期繰越	690
31 () ()				() () ()	15
				現金	270
				ソ	250
買掛金		15			
1/24 () ()		1/1 前期繰越	420		
31 () 240		31	夕	()	
" 仕入帳	50				
売上		18		仕入	
1/31 売上帳	330	1/31 売上帳	2,990	1/31 仕入帳	2,990
				1/31 仕入帳	()

資料5 ×5年1月中の買掛金元帳(すべて)

買掛金元帳							
岐阜商店			1	長野商店			2
1/23 掛け値引	30	1/1 前期繰越	1,710	1/19 ()	20	1/1 前月繰越	270
24 ()	220	14 仕入れ	320	24 ()	240	13 仕入れ	410
		21 仕入れ	240			17 仕入れ	()

(注) 次月繰越は省略してある。

資料6 ×5年1月中の支払手形記入帳(すべて)

支払手形記入帳											
×5年	摘要	金額	手形種類	手形番号	受取人	振出人	振出日	満期日	支払場所	てん末	
										日付	摘要
1	17 仕入れ	420	約手	(省略)	長野商店	当店	1 17	3 17	(省略)		
	24 買掛金支払い	()									
					長野商店	岐阜商店	1 24	2 24			

簿記・会計

問 1 資料 2 の ア・イ, 資料 3 の ク, サ に当てはまる勘定科目を, 次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア・イ, ク, サ の解答群

① 現金	② 売掛金	③ 立替金	④ 前払金
⑤ 仮払金	⑥ 前払保険料	⑦ 支店	⑧ 未払金
⑨ 未払保険料	⑩ 前受金	㉑ 仕入	㉒ 発送費

問 2 資料 2 の ウ・エ, 資料 3 の カ・キ, ケ・コ, シ・ス, 資料 4 の チ～テ, 資料 5 の ト・ナ に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 資料 3 の オ, セ, 資料 4 の ソ・タ に入る最も適当なものを, 次の解答群のうちから一つずつ選べ。

オ, セ の解答群

① ✓	② 15	③ 21/買 2
④ 18/売 1	⑤ 18	⑥ 15/21

ソ・タ の解答群

① 仕入帳	② 普通仕訳帳	③ 買掛金元帳
④ 売上帳	⑤ 売掛金元帳	⑥ 当座預金出納帳

問 4 支店における本店勘定の×5年の前期繰越高は, ¥ ニ 又 0 である。

ニ・又 に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

簿記・会計

第3問 商品売買業を営む埼玉商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)に関する次の資料1～資料4にもとづいて、21ページの問い(問1～3)に答えよ。ただし、金額の単位は、別途指示している箇所を除き、すべて万円である。なお、()は各自で考えること。〔解答記号 **ア**～**フ**〕(配点 30)

資料1 ×5年3月15日における残高試算表

残 高 試 算 表

×5年3月15日

借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
377	省	現 金	
5		現 金 過 不 足	
480		当 座 預 金	
1,200		売 掛 金	
		貸 倒 引 当 金	33
450		有 価 証 券	
500		繰 越 商 品	
90		仮 払 法 人 税 等	
600		備 品	
		備品減価償却累計額	216
	買 掛 金	320	
	借 入 金	240	
	前 受 金	70	
	社 債	384	
	資 本 金	1,600	
	資 本 準 備 金	100	
	利 益 準 備 金	165	
	繰越利益剰余金	220	
	売 上	2,765	
	有 価 証 券 売 却 益	66	
1,500	略	仕 入 料	
455		給 料 費	
20		通 信 費	
480		支 払 家 賃	
10		消 耗 品 費	
6		支 払 利 息	
6	社 債 利 息		
6,179	〃		6,179

資料2 ×5年3月16日から31日までのすべての取引

- 16日：売買目的で保有している千葉商事株式会社の株式10株(1株の帳簿価額 ¥45)を1株につき¥47で売却し、代金は当座預金に振り込まれた。
- 17日：現金過不足の調査の結果、通信費¥4の記入もれが判明した。
- 20日：予約販売契約をむすんでいた茨城物産株式会社に、予約のあった商品 ¥70を売り渡し、代金はその全額を予約金から充当した。
- 30日：売買目的で、東京商事株式会社発行の株式10株を、1株につき¥20で買い入れ、代金は買入手数料¥2とともに、4月1日に支払うことにした。
- 31日：社債(額面総額¥400、利率年3%、利払日は9月末日と3月末日)について、利息¥()を、小切手を振り出して支払った。

資料3 ×5年3月31日における決算整理事項等

- (1) 現金過不足勘定の残高は、原因が判明しないので、適切に処理をする。
- (2) 期末商品棚卸高は、¥600である。
- (3) 売掛金の期末残高に対して、3%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (4) 備品は、すべて×2年4月1日に取得したものである。定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は5年)で減価償却を行う。
- (5) 有価証券は、すべて売買目的で保有する株式であり、決算日の時価は¥()である。
- (6) 消耗品の未使用分は、¥()である。
- (7) 借入金は、すべて×4年7月1日に利率年5%(借入期間1年、利払日は6月末日と12月末日)で借り入れたものである。なお、利息の計算は月割りとする。
- (8) 家賃は、毎年8月1日に1年分を前払いしている。なお、当期に家賃の見直しは行われていない。
- (9) 社債は、すべて×3年4月1日に、額面総額¥400、額面¥100(単位：円)につき¥95(単位：円)、償還期限5年の条件で発行したものである。なお、額面金額と払込金額との差額は、償還期限までの各会計期間にわたり、均等額を社債利息として配分している(償却原価法)。
- (10) 当期の法人税、住民税および事業税の合計額¥()を計上する。なお、中間申告で法人税等¥90を納付している。

簿記・会計

資料4 ×5年3月31日における損益計算書と貸借対照表

損益計算書

埼玉商事株式会社 ×4年4月1日から×5年3月31日まで

費用	金額	収益	金額
売上原価	ア, イ 00	売上高	2, ク ケ コ
給料	455	有価証券売却益	サ シ
貸倒引当金繰入	3	有価証券評価益	30
通信費	24		
減価償却費	()		
支払家賃	()		
消耗品費	6		
支払利息	()		
社債利息	ウ エ		
雑損	オ		
法人税等	カ キ 0		
当期純利益	419		
	()		()

貸借対照表

埼玉商事株式会社

×5年3月31日

資産	金額	負債および純資産	金額
現金	377	買掛金	320
当座預金	944	借入金	240
売掛金 1,200		又	()
貸倒引当金 セ ソ	()	未払利息	ネ
有価証券	タ チ ツ	未払法人税等	60
商品	600	社債	()
消耗品	テ	資本金	1,600
ス	()	資本準備金	100
備品 600		利益準備金	165
減価償却累計額 ()	ト ナ ニ	繰越利益剰余金	ノ ハ ヒ
	3,717		3,717

問 1 資料 4 の ア ～ シ , セ ～ ニ , ネ ～ ヒ に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 資料 4 の ス , ヌ に当てはまる勘定科目を, 次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ス , ヌ の解答群

① 仮払金	② 前払金	③ 前払家賃
④ 前受金	⑤ 前受家賃	⑥ 未払金

問 3 ×5年4月1日に, 事業規模拡大のために, 新たに株式40株を1株につき ¥8で発行し, 全額の引き受け・払い込みを受け, 払込金は当座預金とした。ただし, 払込金額のうち会社法に規定する最高限度額を資本金に計上しないこととした。なお, この株式の発行に要した諸費用 ¥10 を小切手を振り出して支払っている。この取引の仕訳として正しいものを, 次の解答群のうちから一つ選べ。 フ

フ の解答群

① (借) 当座預金	320	(貸) 資本金	320
(借) 株式交付費	10	(貸) 当座預金	10
② (借) 当座預金	310	(貸) 資本金	310
③ (借) 当座預金	310	(貸) 資本金	155
		資本準備金	155
(借) 当座預金	320	(貸) 資本金	160
		資本準備金	160
(借) 株式交付費	10	(貸) 当座預金	10